

平成29年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

糸魚川^{いとがわし}市鳥獣被害防止対策協議会

(新潟県糸魚川市)

集落との対話を基にした電気柵設置等で、イノシシ被害を大幅に削減した取組

主な取組

- ・ 本協議会は平成24年度に市職員及び猟友会からなる鳥獣被害対策実施隊を設置し、農作物被害の防止に尽力。
- ・ 電気柵の設置では、集落住民と話し合いにより効果的・効率的な設置を検討しながら推進しており、その後の維持管理も集落へ適切に指導を実施。平成29年度までの電気柵の総設置距離は322kmに達し、本市の中山間地域の広範囲の農地をカバー。
- ・ 捕獲従事者の確保対策として、農家等を対象にわな猟技術研修会を毎年行うなど新たな担い手の育成に努め、わな免許取得者の増加と合わせ、イノシシの有害捕獲頭数も大幅増加。
- ・ こうした取組により鳥獣による農作物被害額は近年ピークであった平成26年度の728万円から、28年度には131万円にまで減少。
- ・ 本取組は電気柵の設置距離の急速な拡大と、適切な維持管理を両立し被害防止効果を発現した被害対策の優良事例として、周辺地域への波及が期待される。

平成29年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

と な み し
砺波市鳥獣被害防止対策協議会

(富山県砺波市)

地域ぐるみによる侵入防止柵の連続性を確保した設置等を
軸とするイノシシ被害防止対策の取組

主な取組

- ・ 平成25年5月に被害集落の農業者(狩猟免許所持者)を含めた砺波市鳥獣被害対策実施隊を設置し、捕獲技術の向上を図るための活動を強化。
- ・ イノシシの侵入防止対策では、地域・地形に応じて電気柵、金網柵を使い分け柵の連続性を確保。また設置箇所を山裾沿いにして柵の延長を短くし維持管理負担の軽減を図るなど、地域ぐるみで工夫した取組を実施している。
- ・ 実施隊員は、捕獲技術の向上を図る研修会の受講や、射撃技能の維持向上を目的とした定期的な射撃訓練の実施により研鑽を重ね、イノシシ捕獲頭数が増加。
- ・ これらにより、イノシシによる農作物被害額は、近年ピークであった平成26年度の237万円から、28年度には22万円と1割程度まで減少。
- ・ 地域ぐるみの総合的な取組みで、イノシシ被害の大幅な削減を実現した被害対策の優良事例として、周辺地域への波及が期待される。

平成29年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

はくいし
羽咋市（獣肉処理施設）

（石川県羽咋市）

害獣イノシシを獣肉として特産品に、「のとしし大作戦」と称したジビエ利活用の取組

主な取組

- 羽咋市では、農作物の鳥獣被害防止で捕獲するイノシシを食肉など地域資源として活用し、新たな雇用の創出や農作物被害軽減に向けた活動を実施。平成27年10月に獣肉処理施設を設置して、県内の獣肉処理施設のなかで最多の頭数を処理。
- ジビエとして活用するイノシシは、羽咋市のみならず近隣2市4町と連携し広域から集荷する体制を構築。
- 野生獣肉に関するガイドラインなどを遵守し、箱わななどで捕獲した生きた個体を、解体担当者が現場で健康状態を見極めながら搬入するなど衛生管理を徹底。また、金属探知機や急速冷凍機などを導入し安全で高品質な商品を提供。
- 当施設で処理したイノシシは「のとしし」の名称で、衛生管理を徹底した良質のジビエとしてブランド化し、ふるさと納税返礼品や道の駅等で着実に販売。
- 獣肉処理施設の視察受入れや県内外のジビエ講習会での講演などにも取り組み、獣肉利活用推進の優良事例として、周辺地域への波及が期待される。

平成29年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

さばえし
鯖江市

(福井県鯖江市)

マスタープランによる鳥獣害対策のリーダー育成やICT
技術の活用などで被害を大幅に低減

主な取組

- 鯖江市では、市民と市が協働して「鳥獣害のないふるさとづくり」を実現するために、平成24年3月に『人と生きもののふるさとづくりマスタープラン』を作成。平成26年4月に市出先機関として『鳥獣害のない里づくり推進センター』を設置し地域ぐるみの取組に重点を置き、総合的な対策を実施。
- 鳥獣害対策のリーダーを育成する「さばえのけものアカデミー」を開講し、現在ではアカデミー修了生94名が地域リーダーとして市内各地で活躍するなど、人材育成にも尽力。
- 被害の拡大が懸念されるシカやサル群の生息調査や防止対策をICTなどの最新技術を活用して実施。こうした取組の結果、鳥獣による農作物被害額は、ピークであった平成22年度の362万円から、28年度には120万円と1/3に低減。
- 近隣市町との連携を進めるため、平成29年2月の近隣5市町で構成する広域対策協議会の設立にも主体的に関与。
- 地域リーダーを育成するカリキュラムの構築や、ICTなどの最新技術を活用した被害対策の優良事例として、周辺地域への波及が期待される。

平成29年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

おおのし
大野市鳥獣害対策協議会

(福井県大野市)

鳥獣被害発生集落等を対象にした合同パトロールの実施や、山裾への電気柵設置の推進で鳥獣被害を防止

主な取組

- ・ 当協議会は、平成22年度から県農林総合事務所等との連携を図り、先進事例を参考としながら集落リーダーを育成した集落ぐるみの鳥獣害対策に取組。
- ・ 被害発生集落を対象に、関係機関による合同パトロールや個別巡回指導で、追い払い活動や柵の点検・補修等についてきめ細やかな重点指導を行い、被害の再発防止に尽力。
さらに、電気柵等を初めて整備する集落等を対象に、住民自ら柵の点検管理等の対策が行える体制整備を進める研修会等を開催し、人材育成と地域モデルとなる集落づくりも推進。
- ・ 電気柵は、山ぎわから山側に10m程度入った箇所に設置。電気柵とともに点検通路を設けて、人が出入りする心理圧力と電気ショックで「イノシシを山に追い上げる」手法を推奨。
- ・ 鳥獣による農作物被害額は、ピークであった平成26年度の883万円から、28年度には97万円と8割以上低減。被害発生集落等でのきめ細やかな重点指導と、「人と獣の境界線（点検通路＋電気柵）」の整備など工夫された被害対策の優良事例として、周辺地域への波及が期待される。